

診断ひろしま

平成27年7月 第73号



新年度号

- 巻頭の言葉『中小企業診断士は変革する中小企業のナビゲーター』 会長 岸本 実 …… 2
- トピックス『平成27年度通常総会 報告』 …… 3
- トピックス『チーム力をアップするファシリテーション講座1・2』 レポート …… 6
- 随筆・見聞録『白銀は招くよ～私とスキー～』 寺本 暁 …… 8
- 会員『診断士リレー訪問記』 森岡 進太郎 …… 11
- 平成27年度 委員会活動計画 …… 13
- 平成27年度 研究会活動計画 …… 20



一般社団法人 広島県中小企業診断協会

巻頭のことば

『中小企業診断士は変革する中小企業のナビゲーター』

会長 岸本 実



平成27年5月23日に開催された当協会の総会で、新体制は1周年を迎えました。会員諸氏のご支援に深く感謝を申し上げますと共に、協会の存立理念である「会員のためになる協会」を目指して、役員・事務局一体となって取組んでまいります。今後とも、協会活動への積極的なご参加、ご支援をお願い申し上げます。

当協会は、ご承知の通り唯一の経営コンサルタントの国家資格である中小企業診断士の団体として、中小企業者への経営支援活動や勤務先での業務を通じて、地域産業への貢献を期待される専門家集団であります。

近年、当協会には、関係支援機関はもとより、民間団体からの連携の要請が増加してきております。中小企業診断士に向けられた、風向きが大きく変わっている、中小企業診断士に対する期待が大きく高まっていると感じております。

その変化の背景には、政治・経済のグローバル化の進展、為替や原油価格の大幅な変動、IOTやドイツが推進するインダストリー4などの技術革新の進展と商品寿命の短命化、それらに伴う、国内外の競争の激化など、事業者や支援機関にとって急激な経営環境変化があります。

こういった一年先が見通せないカオスとも言える経営環境においては、過去の延長ではなく、未来志向から現在すべきことを図る「逆算のプロセス」あるいは「過去会計」ではなく「未来会計」に基づく経営支援が求められます。

中小企業診断士の業務の本質、強みは、「事業者の経営目標の把握や現状分析から、進むべき指針・課題を明確にし、現在なすべきことを創造し提案すること」であります。まさに当協会ポスターに示されている「変革する中小企業のナビゲーター」です。関係支援機関から、中小企業の支援・課題解決に当たって、中小企業診断士の支援が不可欠との声を聴く所以です。

我々、中小企業診断士は、財務分析や経営環境分析、経営戦略や事業計画の策定、マーケティング調査、新商品開発、現場改善、販路開拓などの各支援ステージと業種・業態などに応じた支援課題に対して、会員それぞれがたゆまず培った幅広い知識・経験や専門性を活かした企業支援を行っております。

支援課題は年々、複雑化・高度化し、一方新たな支援手法も開発され展開されております。中小企業診断士には全体を俯瞰する、より幅広い知識や知見と、業種や課題に応じた、より深い専門性や、支援ノウハウの活用が問われております。協会と会員が連携し、更なる研鑽を積んで、事業者や支援機関等の期待に応えていきたいと考えます。

トピックス

平成27年度通常総会 報告

広報委員 川角 栄二

平成27年5月23日(土)15時よりチサンホテル広島において一般社団法人広島県中小企業診断協会(県協会)の通常総会を開催した。司会は西原副会長が行った。会議に先立ち岸本会長より、次のような挨拶があった。

昨年度、会長、副会長、理事の新体制が承認され、本総会で2年目を迎えた。会員の皆様の協力により、県協会として新たな体制整備も進んできている。お礼を申し上げたい。

近年、中小企業診断士への期待が大きく高まっている。背景として「経営のナビゲーター」としての役割が、関係機関に理解されてきていることがある。

役員・事務局一体となって「会員のためになる協会の実現」、「会員サービスの向上」を目指す。会員には「自主的・積極的に協会活動に参画し盛り上げる」ことをお願いしたい。

続いて、会員の総数および出席者数の確認が行われた。総会員157名中、出席者は102名(含書面表決者)であった。本総会が定款第18条により有効に成立したことが確認されたことを受け、定款第17条の規定により岸本会長は議長席についた。

また、議事録署名人には渡辺理事、田辺理事の2名を指名し、開会を宣言して議事に入った。

総会では以下4つの議案、「平成26年度事業報告(案)・正味財産増減計算書(案)等承認に関する件」「平成27年度事業計画(案)・正味財産増減計画書(案)等承認に関する件」「役員に関する件」が上程され、全員異議なく承認可決された。

総会閉会后、一般社団法人香川県中小企業診断士協会 会長 山下 益明 氏を講師に招き、「中小企業診断士の目指す姿」と題した講演が同会場にて開催された。

その後、引き続き同会場にて懇親会が開催された。以下の来賓をお招きし、昨年と同様、多数の会員診断士との交流が活発に行われた。



中国経済産業局産業部中小企業課 中小企業課長 中山 光治 様
 広島県商工労働局 経営革新課長 小早川 一英 様
 広島市経済観光局 ものづくり支援課課長 天野 博司 様
 公益財団法人ひろしま産業振興機構 常務理事(兼)事務局長 北林 満 様
 公益財団法人広島市産業振興センター中小企業支援センター 課長 椎木 明史 様
 中小企業大学校広島校 校長 岡田 俊 様
 広島商工会議所 事務局次長兼中小企業振興部部長 植野 実智成 様
 広島県商工会連合会 地域振興部長 脇安 秀明 様
 広島県中小企業団体中央会 専務理事 野北 和彦 様
 中国税理士会 広島県西部支部連合会 常任監事 飯野 幸雄 様
 広島司法書士会 会長 末廣 浩一郎 様
 広島県社会保険労務士会 副会長 宮尾 博之 様
 日本公認会計士協会中国会 会長 吉中 邦彦 様
 広島県行政書士会 副会長 田山 智徳 様
 日本弁理士会中国支部 支部長 岩本 牧子 様
 日本政策金融公庫広島支店 融資第四課長 松井 道彦 様
 広島信用金庫 お客様サポート部部長 安原 智樹 様
 一般社団法人香川県中小企業診断士協会 会長 山下 益明 様

平成27年度役員名簿

【 役 員 】

会 長	岸本 実		
副 会 長	田村 善光	西原 州康	
理 事	相川 哲朗	井上 明雄	江川 雅典
	岡 佳弘	小川 成洋	加藤 克敏
	黒川 睦郎	小寺 崇之	佐藤 温彦
	田辺 稔	畑井 謙一	松浦 和夫
	松浦 由浩	増田 宣彦	弓掛 元
	渡辺 敏明		
監 事	岩井屋 忠昭	大村 貞之	木村 武則
【 顧 問 】	藤田 武志		

【 各 委 員 会 】

委員会	委員長	副委員長	委員	
総務委員会	畑井 謙一	渡辺 敏明	佐藤 温彦	田口 信義
			松浦 由浩	三浦 宏司
広報委員会	小寺 崇之	落野 洋一	川角 栄二	三本木 至宏
			西村 英樹	藤本 彰光
試験委員会	小川 成洋	松浦 由浩	青谷 義清	井上 明雄
			植田 昌子	大山 剛士
			加藤 一博	木村 武則
			栗山 琢次	水津 卓也
更新研修委員会	江川 雅典	弓掛 元	秋井 正宏	尾田 二郎
			佐々木 彰	野村 哲朗
			三宅 慶子	宮前 美方子
会員研修委員会	井上 明雄	野崎 義博	榎 志織	上垣内 那典
			木村 武則	
情報化委員会	西原 州康	岩井屋 忠昭	幸野 昌賢	平野 孝一
			村上 勝彦	
グループ研究委員会	岡 佳弘	黒川 睦郎 増田 宣彦	岩田 潤一	岡本 志朗
			立石 賀彦	川角 栄二
			小林 幸夫	宮前 美方子
受託委員会	岸本 実	田村 善光 田辺 稔		

『チーム力をアップするファシリテーション講座1・2』レポート

会員研修委員 上垣内 邦典

広島県中小企業診断協会による平成26年度会員研修「チーム力をアップするファシリテーション講座」を、平成27年1月31日(土)および3月14日(土)の2回にわたり広島県情報プラザで開催した。1回目は中小企業診断士の幸野昌賢氏を、2回目はファシリテーター小林豊治氏を講師としてお招きし、ワークショップ形式でのセミナーを行った。



1回目は「ビジネスパーソンのチーム発想術」

1回目のセミナーは「ラテラルシンキング」をテーマとして、中小企業診断士14名、一般から3名の参加を得て行った。

「ラテラルシンキング」とは中小企業診断士が得意とする「ロジカルシンキング」と対になる思考法で、「水平思考」とも呼ばれる。すなわち、ある課題に対して論理的に正しいかを検証しながら A→B→C→D といった順序に沿って思考を深めていくのがロジカルシンキングだとすれば、A→W や A→B→Y のように突然新しい方向にジャンプする非連続的な思考法がラテラルシンキングである。

当日は、参加者を4~5名ずつのグループに分けて5種類のワークを行った。

- (1) ラテラルクイズ
- (2) 話の流れを変える
- (3) 共通点を探そう
- (4) ネガティブをポジティブに変える
- (5) 理想の〇〇を考えよう (635法) ※右図参照

理想の病院食		
茶がおいしい	カロリーが低い	糖質が低減した
無脂肪	油脂が少しい	塩分が低い
新鮮な食材を使う	栄養価が高い	食器もよく見栄えがよい
常備薬がある	栄養成分が明確にわかる	盛り付け、新しい作りかたがある
色味もよく	味付けがよい	食卓がきれい

ワーク(5)「理想の〇〇を考えよう(635法)」用のブレイン・ライティング・シート。「理想の病院食」をテーマに取り、各メンバーが3つずつアイデアを出してマス目を埋めていき、その後絞り込んでいくというグループ発想法でアイデア出しをしている様子。

昔から「三人寄れば文殊の知恵」と云われるのは、グループ発想によるアイデアの拡がりや創発効果への期待感のあらわれといえるだろう。そのグループ発想の効用を最大限に引き出すのがファシリテーションの方法論である。

それは中小企業診断士にとっても、論理的な思考だけでは答えの出ない課題に直面した時の引き出しの一つとして有効な手法である。

2回目は「ビジネスパーソンのチーム会議術」

2回目のセミナーは、問題解決型ファシリテーションの基本となる4つのスキルを学ぶことをテーマとし、中小企業診断士12名、一般企業から2名の参加を得て行った。

4つの基本スキルとは

- ①【共有】場のデザインスキル
- ②【発散】対人関係のスキル
- ③【収束】構造化のスキル
- ④【決定】合意形成のスキル

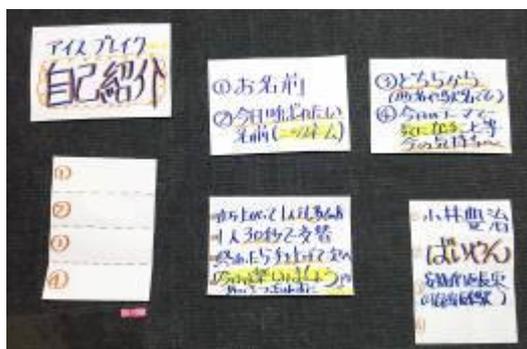
であり、セミナーではその全体像を学んだ。

最初の硬い雰囲気のを和らげる「アイスブレイク」では参加者が相互に自己紹介。ファシリテーションの基礎を学び、職場で活用するという目的を持った方にも参加いただいた。

また、今回勉強になったのは、ボードの使い方である。パワーポイント等で作られたプレゼンシートよりも、手書きのシートの方が強調ポイントも伝わりやすく、これをボードに貼る方式を採ることで会場セッティングも簡略化されるなど、役立つ発見が多かった。

1回目・2回目とも好評を得た。参加者からは「面白い」「興味深い」「診断士に必要」「仕事に活かしたい」などの声とともに、「もっと知りたい」との感想をいただいた。

会員研修委員会としても、2名の講師の方のご協力のもと、ファシリテーションをテーマとしたセミナーが開催できたこと大変うれしく思っている。同時にファシリテーションは1~2回の短時間のセミナーで完結できるテーマではないということも痛感した。できれば、ファシリテーション講座の継続、また関連した内容のセミナーの開催などを検討していきたいと考えている。



連載

診断士コミュニティ

随筆・見聞録『白銀は招くよ～私とスキー』

中小企業診断士 寺本 暁



今年は12日もスキー場で過ごした。ゴールデンウィークが急遽8連休になり、とくに前半は予定が何も入らず、思い立って長野市の善光寺御開帳に一人ででかけ、それに合わせ皇太子ご一家御用達の奥志賀高原スキー場を初めて滑り、56歳で人生最多雪上日数記録を樹立した。

恒例の職場同期生での信州スキーツアーの際には、長野オリンピックで里谷選手が金メダルをとった会場の飯綱高原スキー場に初めてでかけた。これも長野オリンピックの舞台であるが白馬八方尾根スキー場では、名物の「こぶスペシャル」というスクール（こぶだらけの斜面の滑り方）を受講。毎年10日のスキー場通いをノルマとしているが、大変有意義なシーズンだった。

初めてスキーをしたのは1970年代、大学入学の年、大学体育会のスキースクールで長野県の梅池高原であった。下半身安定体型の私は、すぐ転ばず滑れるようになったが、学生時代や社会人1～2年目の頃は厳冬期の北海道へ旅行に行ったついでに1日か2日、北海道の旭川や小樽や富良野のユースホステルの近所で滑ったくらいである。

その後、1980年代半ばから、職場の友人に大山や芸北方面に連れてってもらったりして、その楽しさの虜になり、職場の週休2日制導入時には、土曜日に自分の車で一人でも滑りに行くことも増えた。何しろ、道路に雪がなくチェーン不要の時期は、沿岸部の自宅から高速道を利用せず僅か1時間半でスキー場に到着する。広島は大変スキーに行くのが楽な地域である。

90年代初頭、転勤で東京にいた私は、休暇を取って新潟県の越後湯沢や苗場に、寒がりでも出不精の妻を含め家族で車で行き、土曜から日曜午前の大混雑と平日の平穏さの落差にびっくりした。その頃は、幼稚園児だった息子たちをスクールに入れたり、自らマンツーマン指導し、「お父さんすごい」「お父さんありがとう」などと言ってもらった。今はまるでスキーをしない妻や息子たちだが、いい思い出ではある。

ちょうどその頃は、世にいう「スキーブーム」。1987年の映画“私をスキーに連れてって”がきっかけとされるが、スキー・スノーボード人口（夫々を1年間1回以上行った人口）の推移は、レジャー白書等の分析によると、

映画封切時の87年～88年頃は約1,200万人、

90年代初頭が爆発的にブームで約1,800万人、

ちなみに2010年頃は約1,000万人とのこと。

ただ、自分の体感としては、80年代とは現在のゲレンデの込み具合は全く違う。1人あたりの来場回数自体が落ちていると思う。考えられる要因として

- ①少子化で若年層減少
- ②若年層の価値観多様化（安近短のレジャーを求める）
- ③若年層の低所得化（最もスキー・スノボ人口の多かった93年頃はバブル絶頂。その後経済活動が低迷し移動・道具にお金がかかるスキー・スノボは敬遠。携帯通話料も多額を要し、スキー場へ行く車を買う金がない）
- ④2000年前後は温暖化のせいで営業日数が低水準（以前は芸北地区も11月下旬からGWまでオープンしたところもあった）・・・などがあると考える。

こうした場であるので、業界分析をするが、スキー場産業は以下5分野が集合し成立している。

- ①索道（ゴンドラ、リフト）関連事業
- ②宿泊関連事業
- ③飲食関連事業
- ④物販（お土産、用品等）関連事業
- ⑤各種関連サービス事業（レンタルスキー、スクール、温泉・クア施設、駐車場等）

山岳・豪雪過疎地域の救世主であり、雇用創出・地場産業の創出・温泉地の活性化や冬季余暇活動の振興という使命を担っている。

しかし、バブル期にリゾートビジネスへの展開で過度の設備投資が行われ、人工降雪機・雪面整備車両開発（長野県八方尾根スキー場では億円単位の車両が活躍している）、高速・大量輸送用リフト、ゴンドラの開発、宿泊施設・輸送手段等の質的向上をめざしたものの、来場者数減少・設備更新凍結・上記の様な積極的投資に対する借入返済余力減少等の要因から経営難となり、スキー場運営会社倒産・譲渡・売却・休廃業となったり、北海道夕張市では地域経済の破綻に至った。広島近隣のスキー場も経営母体が次々変遷してきている。

ここへきて、以下のような要因から、若干スキー場にも薄日がさしてきた。

- ①スキーブーム時の若いスキーヤーたちが、シニアとなってスキー場へ回帰している
- ②リクルートのじゃらんネット参加のスキー場（近隣では瑞穂ハイランド、アサヒテングストン、恐羅漢、ユートピアサイオト等）の「19歳はリフト券無料」、という「雪マジ! 19」なるキャンペーン等での若年層呼び込み

-
- ③地元名産・名物料理の活用（大山での「ジンギスカン」や鳥取ヒレステーキ使用の大山バーガー、長野県でのゲレ食バトル～ゲレンデでの昼食の人気投票～、北広島町寒曳山のバイクキング等）
 - ④イベント開催（自分も恐羅漢節分祭へは毎年参加している）
 - ⑤ポイントカード導入など、あの手この手での集客策がとられている。

毎年、「今年はどこで何があるかな？」とスキー場のホームページを見るのは、初冬の楽しみである。問題は、職場からいただく実入りが年のせいで減少し、なのに以前は年に1度しか行かなかった信州遠征を今年は3度も実施し、そろそろ趣味をリストラせねばならない状況に陥ったことである。妻からも厳しいお達しがあった。自分で言うのも何だが、私はかなり多趣味である。春～秋は登山、カープ・サンフレッチェの応援、下手なりにゴルフもし、夏はスキューバダイビング、・・・あー悩ましい。

『診断士リレー訪問記』

企業内診断士の会 森岡 進太郎

榎 志織（えのき しおり）氏

今回私は、榎志織（えのきしおり）先生をご紹介します。

榎先生は、広島市のお生まれで、四人兄弟の三女として育ったそうです。双子のお姉さんがおり、大学まではいつも二人一緒だった、と嬉しそうに聞かせてくださいました。来客の多い家で育ったため、小さな頃から「おもてなし」とは何かを、身近に感じていたとのことで、それが現在のサービス業や小売業に対する支援のベースになっていると感じているそうです。



もともとは、大手通信会社の研修センターで研修講師をされていました。そこで、尊敬できる上司や、先輩、仲間と出会い、講師として経験を積みしっかり育ててもらったことを、今でも感謝しているそうです。結婚、出産を機に退職したそうですが、研修講師としての幅を広げたいとの思いで、診断士の資格取得を目指されました。臨月の大きなお腹で2次試験を受け無事合格され、2013年に診断士登録をされました。

講師の仕事が大好きだと語る榎先生、最近は特に、女性向けの創業セミナーや、企業の人材育成研修等を引き受けることが多いそうです。サービス業、小売業に対する支援の一環として、店舗等の覆面調査を実施し、現場の問題点や接客レベルを把握すると共に、モラルサーベイを実施しその双方の結果から「チーム力」を分析し、「チーム力」を高めるための最適な研修を実施することにも力を入れているとのことでした。また、先日開催された、「第一回会員研修会」では、講師を担当されました。「研修の企画の方法」、「効果的なインストラクションスキル」を診断士19名が学びました。参加者からは、「興味深い内容だった」「ぜひもう一度実施して欲しい」等の感想が出ていました。本格的に講師のスキルを学びたい人に対しては、個人的なアドバイスもしていらっしゃるそうです。

プライベートでは、5歳と2歳のお子様のお母さんでいらっしゃいます。仕事と育児の両立はどうしているのかと聞いてみますと、「保育園や双方の両親にたくさんサポートをしてもらっています、また主人もよく子供達のことを見てくれます。」とのこと。とはいえ、仕事優先にしていることで、子供達へ申し訳ない気持ちもあるのだとか。昨年の夏から、中区本川町にある起業・創業サポートオフィス「port.inc」に入居されていらっしゃるそうですが、運営会社である株式会社Hintの中島社長も、子育て中のママ、という共通点があり、仕事以外の話もよくしているそうです。「今は、やりたいことがたくさんあるけれど、子供達のこともあり時間的な制約が大きい。10年後の自分を考えながら1つ1つ積み上げていきたい。」との今後の抱負を聞くことができました。県協会の中でも数少ない女性の独立診断士として、今後益々のご活躍を期待しているところです。

『新入会員紹介』

西村 賢志（にしむら けんじ）



この度、広島県中小企業診断協会に入会しました西村賢志と申します。私は現在、地元金融機関に勤務しておりますが、日々、中小企業の社長様と接する中、金融知識以外にも経営に関する幅広い知識を得ることができれば、より深くお客様の相談に乗れるのではないかと思い、中小企業診断士の勉強を始めることとなりました。

実を言えば、当初は診断協会に入会する予定ではなかったのですが、実務補習を受講する中で、経験豊富な素晴らしい先生方や、意識の高い多くの仲間と出会い、これからも金融機関の中だけでは得難い刺激を受けたいと感じ、本協会に入会させていただくこととなりました。

現在はおお客様の課題解決のお手伝いをする部署で充実した日々を過ごしておりますが、これからも企業内診断士として中小企業と金融機関がより良い関係を築くために汗をかいていきたいと思っておりますので、諸先輩方のご指導・ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

『転入会員紹介』

佐々木 敦（ささき あつし）



平成26年3月に中小企業診断士に登録し、この度、広島県中小企業診断協会に入会させていただきました佐々木敦と申します。現在、自動車部品メーカーで設計業務に従事しており、昨年9月広島に転勤でまいりました。

青森県出身ですが、これまで愛知県豊田市や神奈川県厚木市など自動車と関係の深い土地で仕事をしてまいりました。

資格取得のきっかけは以前、新製品の開発業務を担当した際、なかなか成果が見えてこない中であるべき開発の進め方をより大きな視野で考えようとMBA関係の書籍を読み始めたことです。開発から離れた後、体系的に深く学びたいと思いMBAより時間的制約が少ない診断士の資格取得を目指しました。

現在、診断士試験科目の中で特に苦手だった会計への理解を深めるため、会計基準や財務諸表原則を学んでいます。試験から解放されて、ようやく面白さを感じるようになりました。

また、5月に企業内診断士の会に入会し、県協会を通じてたくさんの診断士の方々と知り合い刺激を受ける機会があることの有り難みを実感しております。今後、様々な機会を活かして自己研鑽に努めたいと思っておりますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

平成27年度委員会活動計画

『総務委員会』

総務委員長 畑井 謙一



2月3日(火)、メルパルクにて、広島自由業団体連絡協議会が開催された。12の士業団体が活動状況報告や情報交換を行った。また、広島市と同協議会が共催で実施しており今年で第23回目となる「無料よろず相談会」は、本年は11月17日(火)に行うこととなった。

2月26日(木)、平成26年度第4回理事会を開催。平成26年度決算見込み、平成27年度計画他について議論された。

4月30日(木)、平成27年度第1回理事会を開催。総会に提出するための平成26年度決算報告、平成27年度計画などについて討議された。

5月23日(土)、チサンホテルにて平成27年度総会・講演会・懇親会を開催。総会参加者は52名。講演会は香川県中小企業診断士協会の山下益明会長が「中小企業診断士の目指す姿」と題して講演。お客様へのお役立ち度を上げること、診断士の地位向上、中小企業を元気にすることなどについて熱く語って頂いた。懇親会には会員48名、来賓18名が参加。総会・懇親会とも昨年を上回る参加者となり、会員の協会への参加意識の向上が窺える結果となっている。

『広報委員会』

広報委員長 小寺 崇之

1. 委員会メンバー

平成27年度の広報委員会は、委員長に小寺崇之、副委員長に落野洋一、委員に西村英樹、川角栄二、三本木至宏、藤本彰光の合計6名の体制で推進する。

2. 活動内容

広報委員会は、中小企業診断士の認知度向上および中小企業診断士の能力向上のために県協会が行う活動を支援することを目的とし、次の活動を行う計画である。

(1) 協会機関誌「診断ひろしま」の発行

協会・各委員会・研究会の計画や活動の紹介、スキルアップメニュー（診断助言事例、実務従事報告等）や、診断士コミュニティ（随筆見聞録、書籍出版紹介、診断士リレー訪問記、新入会員紹介）等を掲載する。

(2) 広報活動の推進

協会の活動および取り組みについて、会員や各関係機関等に広く周知を図るため、その他広報活動を行う。具体的な活動内容については今後の委員会にて話し合いを行い決定していく。

『試験委員会』

試験委員長 小川 成洋

1. 中小企業診断士試験

中小企業診断士試験を中小企業支援法に基づく指定機関として本部より受託し、次のスケジュールで実施する。

(1) 第一次試験

平成27年8月8日・9日の2日間 広島工業大学専門学校で実施する。

(2) 第二次試験

筆記試験は平成27年10月25日(日)に広島県情報プラザにおいて、口述試験は平成27年12月20日(日)チサンホテルにおいて実施する。

2. 中小企業診断士実務補習

中小企業診断士実務補習は、経済産業省令に基づく登録機関事業として次のとおり実施する。

(1) 夏季コース (5日間コースのみ) 会場: 広島県情報プラザ

平成27年7月(7/3~13)・9月(9/11~24)に実施する。

(2) 冬季コース (15日間コース・5日間コース) 会場: 広島県情報プラザ

平成28年2月・3月(2/5~3/14)に実施する。

3. 平成28・29年度の中小企業診断士試験の入札参加

7月実施・9月結果判明

試験委員会のメンバーは以下の通り。(順不同、敬称略)

(委員長) 小川成洋 (副委員長) 松浦由浩 (委員) 栗山琢次 加藤一博 木村武則

青谷義清 大山剛士 植田昌子 水津卓也 井上明雄

『更新研修委員会』

更新研修委員長 江川 雅典

平成27年度は、昨年度のアナウンスの結果を踏まえ、第3回目として福山地区での理論政策更新研修を新たに加える試みを行う。また、その開催を来年の2月とし、補正予算による様々な施策の実施計画に合わせ、且つ更新ポイントの締切り直前という日程を組んでみた。

これまでの2回の理論政策更新研修が3回になることにより、参加者の分散が予想できることから、会場の見直しも可能になった。過去の理論政策更新研修では、2回の研修で参加者を収容する必要があるため、定員180名を超える会場を手配しなければならず、最後尾の方はスライドの文字が見えないなど、多くの不満が出ていた。

この度の見直しで定員140名程度の会場が使えるので、研修テーマと受講機会の増加により有意義な理論政策更新研修が実現できるのではないかと期待している。様々な改革を試みながら、現状に甘んじることなく更なる進化を図っていきたいと考えている。

ぜひ率直なご意見をお聞かせ願いたい。

今年度の理論政策更新研修は、以下のとおり3日を予定している。

第1回 平成27年7月11日（土）広島県情報プラザB1F 多目的ホール13:00～

第2回 平成27年11月28日（土）広島県情報プラザB1F 多目的ホール13:00～

第3回 平成28年2月11日（木祝）広島県民文化センターふくやまB1F 文化交流室

11:00～16:00（昼休憩1時間）

なお、7月11日の理論政策更新研修では、更新要件の必須要件である「新しい中小企業施策について」の題目で、中国経済産業局より講義いただいた後、本協会の会員でもある 広島大学産学・地域連携センター 特任教授 平見 尚隆氏より「中小企業の海外展開支援について」の題目で、昨年度メキシコで奮闘された実情をご教授いただく予定である。

診断実務従事事業に関しては、10月及び11月の2コースを用意し、事業の案内後7月末を締め切りとして募集することとしている。10月コースは5名1班、11月コースは5名2班を予定し、合計15名の診断実務従事ができるように計画した。いずれのコースも有意義で実務に役立つよう、更新研修委員会メンバーがバックアップしていく所存である。

『会員研修委員会』

会員研修委員長 井上 明雄

○. 会員研修委員会活動

一般企業も対象にする「広島県中小企業診断協会セミナー」を3回、協会会員を対象とする「会員研修会」を3~4回の開催を予定している。

「広島県診断協会セミナー」では、前期に取り上げた『チーム力向上』を継続テーマとし、ファシリテーションを中心に、企業や団体の組織活性化に関わるスキルの取得と向上を目指す。

「会員研修会」は、当協会員の指導力からコミュニケーション能力まで幅広い資質の向上を目的とする。今年度から、他県診断協会と連携した研修事業の開催も検討する。



(1) 広島県中小企業診断協会セミナー

平成27年10月、11月、平成28年1月に開催予定

(2) 会員研修会

平成27年6月、8月、12月、平成28年2月に開催予定

『情報化委員会』

情報化委員長 西原 州康

平成27年度の情報化委員会の活動計画は、以下の通りである。

1. 県協会ホームページによる情報発信

県協会のホームページの掲載情報を更新し、中小企業支援機関や中小企業への広報活動、県協会会員に対して的確な情報提供を行う。

- ① 広報誌「診断ひろしま」の毎号発行時掲載
- ② 県協会の行事、更新研修、診断士試験、研究会活動、一般研修、セミナーなどの案内を適時掲載
- ③ 各委員会、研究会からの発信情報掲載

2. フェイスブックによる情報共有、情報発信

県協会のフェイスブックページにより、最新情報を広く県協会会員以外にも発信していく。また、県協会会員のグループにより、会員内の情報発信、共有を活発にしていく。

3. ITインフラの整備・セキュリティ強化

事務局のITインフラを整備し、セキュリティを強化していく。



『グループ研究委員会』

グループ研究委員長 岡 佳弘

1. はじめに

本年度よりグループ研究委員長を拝命することとなりました「岡 佳弘」です。微力ながら研究会活動の活性化および新規研究会設立に向け、頑張っまいますので、会員の皆様のご理解・ご協力の程、宜しくお願いたします。



2. 委員会体制

本年度のグループ研究委員会は、5研究会に所属する計9名の会員により活動を行う。新たな委員会体制は次のとおりである。

委員長	岡 佳弘		
副委員長	増田 宣彦	黒川 睦郎	
委員 (順不同)	岩田 潤一	岡本 志朗	川角 栄二
	小林 幸夫	立石 賀彦	宮前 美方子

3. 活動方針

研究会相互の連携を図るとともに、新規研究会の設立を促進することにより、研究会活動の活性化を目指す。また、研究成果を広く発信することにより、会員相互の研鑽の場を提供し、診断協会会員増加に貢献していく。

4. 活動計画

(1) 研究会活動のPR、新規研究会設立促進

昨年度新規作成した研究会活動PR小冊子の掲載情報を更新し、引き続き協会HPで公開するとともに、様々な機会を捉えPRを実施する。また、新規研究テーマを発掘する等により新規研究会の設立を促す。

(2) グループ研究会連絡会議

研究会相互の連携を図るとともに、研究会活動活性化に向けた諸課題を議論するため、各研究会代表による連絡会議を年2回開催する。

(3) 研究活動成果発表会

会員相互の研鑽の場を提供するとともに、研究会参加を契機とした協会への新規入会を促進するため、研究成果を中心とした発表会を開催する。なお、今年度の日程は次のとおり。

○平成27年12月5日(土)午後1時～5時 広島県情報プラザにて(予定)

(4) 研究活動成果の発信

研究成果に関する論文について、随時協会HP上で公開する。また、協会本部「平成27年度調査研究事業」への積極的な応募を促す。

『受託委員会』

受託委員長 岸本 実



当委員会は県協会の受託事業の窓口として、一般社団法人化に合わせて平成24年度に発足した。

県協会の経営基盤強化には受託事業の拡大が必須である。そのため、昨年度に引き続き、新たな受託事業の開拓にも取り組む。平成27年度の活動計画（平成26年度実績）は以下の通り。

1. 受託事業

(1) 主な受託事業

関係機関	内容	H27年度計画 (H26年度実績)
(公益財団法人) ひろしま産業振興機構	・設備貸与事後診断	専門家派遣 30件 (30件)
	・技術・経営力評価業務	専門家派遣 30件 (28件)
広島県信用保証協会	・経営診断/改善計画	専門家派遣 40件 (32件)
	・創業事後診断	専門家派遣 20件 (新規事業)
広島商工会議所	・専門相談コーナー	専門家派遣 32件 (32件)
広島県健康福祉局	・浴場診断	専門家派遣 15件 (隔年実施)
県中小企業団体中央会	・ものづくり支援事業	書類審査専門家紹介 4名 (追加紹介)
協同組合県鉄構工業会	・経営改善支援	専門家派遣 10件 (新規事業)
PJR (ISO 認証機関)	・認証事前事後の支援	専門家派遣 20件 (新規事業)

(2) 新規受託事業

- ・金融機関との連携～企業診断、企業支援について専門家派遣の取組を行う。
- ・他の土業との連携～診断協会を主体に、土業専門家と連携した受託事業を検討する。
- ・その他取組～中小企業支援機関等の行う公募に応募し、新規受託を行う。

2. 課題解決の取組

(1) 品質の担保

顧客のニーズに合った内容・レベルのアウトプットの品質確保のため、会員研修や派遣の仕組み作りの取組を行う。

(2) 受託事業の体制整備

受託事業の更なる拡大のための、受託事業の在り方を見直し、体制整備についての検討を進める。

平成27年度 年間主要事業日程表

『平成27年度 年間予定表』

日 付	行 事
4月30日(木)	平成27年度 第1回理事会
5月23日(土)	平成27年度 通常総会
6月20日(土)	第1回 会員研修
7月3日(金) ～13日(月)	夏期実務補習① (5日間)
7月11日(土)	第1回理論政策更新研修 (広島会場)
8月8日(土)、9日(日)	中小企業診断士1次試験
8月20日(木)	平成27年度 第2回理事会
8月22日(土)	第2回 会員研修
9月11日(金) ～24日(木)	夏期実務補習② (5日間)
10月24日(土)	第1回 広島県中小企業診断協会セミナー
10月25日(日)	中小企業診断士2次試験 (筆記試験)
11月19日(木)	平成27年度 第3回理事会
11月28日(土)	第2回理論政策更新研修 (広島会場)
11月17日(火)	広島市よろず相談会
11月21日(土)	第2回 広島県中小企業診断協会セミナー
12月	第3回 会員研修
12月5日(土)	グループ研究成果発表会
12月20日(日)	中小企業診断士2次試験 (口述試験)
1月23日(土)	第3回 広島県中小企業診断協会セミナー
2月	第4回 会員研修
2月5日(金)～15日(月)	冬期実務補習① (15日間・5日間)
2月11日(木)	第3回理論政策更新研修 (福山会場)
2月19日(金)～29日(月)	冬期実務補習② (15日間)
2月25日(木)	平成27年度 第4回理事会
3月4日(金)～14日(月)	冬期実務補習③ (15日間)

平成27年度 研究会活動計画

『ISO研究会』

研究会代表 栗山 琢次

1. H27年度の活動状況

ISO研究会活動のねらいは、ISOの有効活用を指導できる診断士を育成し、効果的で適切な指導方法を研究することである。H26年度からは、医療・介護・福祉サービス分野で進められている第三者認証を取り上げ活動している。H27年度からは、加えてISO9001のWEB研修受講の機会があり研究会として取り組んでいる。研究会メンバーは4名で専門分野は建設業、製造業、サービス業、医療の分野からなっている。活動の周期としては、2ヶ月に1回とし、時間帯も企業内診断士が参加し易いことを基本に考えている。新しい参加者も広く募集しているので、活動に興味を持たれた方は、協会事務局までぜひご一報を！

2. 活動の経緯と概要

1) H27年度活動は、これまで、「小規模多機能事業所」に対する、ISOの導入から実施までのノウハウを生かした支援をするべく、研究会活動を行っている。介護サービスの現状としては、高齢化の進展により、75歳以上の高齢者割合は急速に上昇し、2060年には26.9%に達する。これにあわせて、介護費用の予測では、2025年度、約20兆円に達する見込みであり、成長産業といえる。事業者が抱えている運営上の問題点は、

①良質な人材確保・育成が困難、②介護報酬の低さ、
③事務手続きの煩雑さが上げられる。経営支援の課題としては、①第三者評価に耐えうるマネジメントシステムのモデル提供で、事務の負荷なくPDCAが廻る仕組みの構築、②キャリアパスに連動した評価制度として、事業所の組織実態と役割（ポスト）を勘



案した現実的な人事評価制度導入支援、③目標を立て、自立的にいきいきと働け、従業員と利用者満足を高める職場環境づくりの支援、が求められている。ISO研究会としては、しくみ作りの面から課題解決につなげることを目指し介護サービスの第三者認証での要求事項の整備、マニュアル作り、などを進めている。

2) 一方でISO9001は、2015年度から規格改定が予定されている。WEB研修は、外部団体から診断協会を通じて要請があり進めている。認証取得済み企業の新規格への対応及びレベルアップの支援が主目的である。研究の成果を活用した企業、行政その他の団体からの事業の受注を視野に入れて取り組んでいる。ISO14001（環境マネジメント）も改訂予定で、この際勉強してみようと思われる方も当研究会へ参加下さい。

『販路開拓研究会』

研究会代表 川上 正人

■研究テーマ

今年度は、改正小規模事業者支援法に基づく、経営発達支援計画の策定、及び円滑な実施のための支援手法の確立を目指す。経営発達支援計画に関する認定申請ガイドラインに規定された4指針6事業のうち、以下の3事業について中小企業診断士他、経営支援に携わる方が支援に活用できるよう、手順と手法を標準化する。

■実施項目**①経営状況の分析**

事業環境、及び財務を分析するための手順と手法を確立させる。的確、かつ効率的に生かすべき強みと解消すべき本質的な経営課題が抽出するための手順を取りまとめる。

②事業計画の策定

経営状況の分析結果をもとに、経営課題を解決し、需要を見据えた事業計画を策定するための取組を標準化する。

③事業計画の実施支援

主として販売すべきターゲットの選定、新規顧客へのアプローチ方法、商品・サービスのPR方法など販路開拓を支援するための取組を標準化する。

■情報交換

その他、先駆的に伴走型支援に取り組まれている商工会、商工会議所の担当者と本会会員等との交流を図り、各地区での取組に関する情報交換を実施する予定。



【2015.06.13・14 東京都協会城南支部 経営改善計画書策定研修】

『建設業研究会』

研究会代表 増田 宣彦

1. 建設業研究会の代表交代

本研究会設立時から代表を務められた加藤克敏先生から、大した実績もない増田宣彦への交代にあたり、私が本研究会に在籍した3年間を振り返ってみたい。

独立開業にあたって特段の得意分野も無く、まずは研究会に所属することが肝要との思いから、建設業に関与した経験は浅かったものの、加藤先生を慕って本研究会に参加した。先輩メンバーとともに活動する中で、私にとっては研究会がプロコン育成機関となっていた。



加藤先生から、研究テーマとして中小企業レベルにあった原価管理はどうかと示唆され、「利益を生み出すコスト管理の手法」として取りまとめた後、原価管理ソフトの開発に挑戦した。

2. 原価管理ソフトの開発（平成26年度活動報告）

メンバーが持つノウハウ・管理手法を盛り込んだ管理ソフトを開発するため、本研究会がフル回転した結果、年度末にようやく成果を見たところである。

原価管理だけでなく営業管理・労務管理・業績管理など多くの管理業務ができるよう、総合性・汎用性をもたせており、今後は、中小建設業への普及方法を詰めていきたい。

3. 省エネ基準改正に対する地域工務店への支援（平成27年度活動計画）

改正された省エネルギー基準が、全ての新築建物に適用されることに伴い、地域の工務店が対応すべき課題と対策について研究し、メンバーの経営支援に活かしていく予定である。

内容としては、省エネ基準の改正内容および、省エネ関連の補助制度について情報収集する。地域工務店とともに、現場における課題と対策を調査研究する。経営支援に活かせるようノウハウ集として纏めることなどである。

『企業内診断士 診断能力向上研究会』

企業内診断士の会 野崎 義博

企業内診断士診断能力向上研究会（略称：企業内診断士の会）では、企業内診断士の企業診断等にかかる能力の向上（研鑽）、中小企業経営の改善・革新の支援（貢献）、診断士の活動に必要なネットワーク作り（連携）を目的として、月1回のペースで月例会合等を開催し、会員それぞれが意欲的にグループ研究、個人研究、実務診断等を行っている。発足より5年目を迎え、メンバーも年々増え、現在26名となっている。

平成27年4月18日に定時総会を開催し、以下のとおり今年度の活動計画を策定した。7月及び11月は交流会を行う予定であり、当研究会会員以外の方も是非ご参加いただきたい。

平成27年度活動計画（平成27年6月25日現在）		
月 日	活 動	内 容
平成27年 4月18日	定時総会	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度年次総会 懇親会
5月16日	月例会合	<ul style="list-style-type: none"> E社診断状況報告 27年度研究活動（グループ、個人）の決定、活動日程等の調整
6月20日	月例会合	<ul style="list-style-type: none"> 個人研究発表 企業内弁理士との意見交換 E社診断状況報告
7月11日	夏季交流会	<ul style="list-style-type: none"> 平見尚隆氏によるセミナー 懇親会
8月16日	月例会合	<ul style="list-style-type: none"> 新規会員業界動向等発表 個人研究発表
9月19日	月例会合	<ul style="list-style-type: none"> 新規会員業界動向等発表 個人研究発表
10月17日	月例会合	<ul style="list-style-type: none"> 個人研究発表
11月28日	秋季交流会	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師によるセミナー 懇親会
12月19日	月例会合	<ul style="list-style-type: none"> 個人研究発表

平成28年 1月16日	月例会合	・個人研究発表
2月20日	月例会合	・グループ研究発表
3月19日	月例会合	・グループ研究発表



定時総会後に、ご来賓の県協会田村副会長をお迎えして開催した懇親会の様子

(平成27年4月18日 於：ひろしま国際ホテル)

『ものづくり支援研究会』

研究会代表 岸本 実

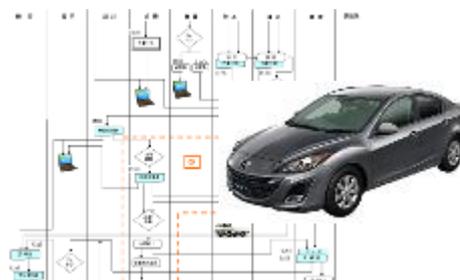
本研究会の活動の狙いは、会員の「ものづくり診断スキルの向上」への寄与。活動のゴールは、地域のものづくりの課題の把握と対応策などについて多面的に研究し、生残り策を探っている地域の製造業への提言を行うものです。

昨年度は、製造系診断の基本となる生産面の診断マニュアルの作成に取り組みました。

本年度は、テーマを絞った特定企業向けの支援活動の実践として、下記を予定しております。

- ・中長期のものづくり環境変化を踏まえた、ものづくり戦略の提案（継続）
- ・現場の生産性改善支援（継続）、など

本研究会にご関心があり、参加ご希望の方は診断協会事務局に是非ご連絡ください。歓迎いたします。



『海外展開支援研究会』

研究会代表 平見 尚隆



本年度の広島県中小企業診断協会総会にて、本研究会の設立を紹介させていただいた。日本企業のグローバル化がさげばれて久しいが、ここに来て、大企業が海外生産を加速させている。中小企業も古くから海外進出を行ってきているが、日本の国レベルでもこの動きを積極的にサポートする支援策が出てきている。中小企業の経営を支援する中小企業診断士としても、この動きを積極的にサポートしていくことが必須と考える。実際に、東京、大阪をはじめとする大都市圏では、診断士が力を結集して海外支援を実施していることが報告されている。広島県協会としても、地元企業の海外展開を支援していくべく、研究活動を促進し、ノウハウを蓄積、県協会内で展開することで県協会全体のポテンシャルアップへつなげていくべきと考える。たった今、船出したばかりの研究会である。まずは、診断士の経営理論を地図とコンパスとし、実際の中小企業の活動の調査を進めていきたい。本活動に興味を持たれた諸氏の本活動への参加を期待する。

まとめ

『事務局からのお知らせ』

1. 会費納入のお願い

平成27年度の会費納入につきまして、既に振込用紙と請求書を送付させていただいております。納入期限は6月末日となっておりますので、未だ納入しておられない方は、速やかに納入していただきますようお願いいたします。

2. 地域プラットフォームにつきまして

今年度も昨年度に引き続き中小企業・小規模事業者ビジネス創造等支援事業に係る地域プラットフォーム事業を実施しております。まだ専門家登録をなされていない方は是非この機会に専門家登録をされて、大いに活動していただきますようお願いいたします。

3. 診断実務実習のお知らせ

日頃診断業務に携わる機会の少ない診断士の皆様向けに、診断手法・診断ノウハウの習得と登録更新に必要な実務従事ポイントの取得を目的とする「診断実務実習」を本年度も下記の通り実施いたします。受講を希望される方は、お早めにお申し込みください。

◇実施時期および期間

10月および11月、期間はともに6日間

実施日は原則として土日祝日（診断先企業の都合により、平日が加わる場合もあります）

◇受講料

当会正会員・特別会員 42,000円（税込）

非会員 63,000円（税込）

◇申込締切日

平成27年7月31日（金）

4. 事務局長就任のあいさつ

このたび、事務局長に就任いたしました落野（おちの）と申します。

県協会への勤務日は毎週月曜日となっております、その他の日を含めて、月6日程度の出勤となります。不慣れな点から会員の皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご協力のほどよろしくようお願いいたします。

『編集後記』

平成27年の新年度を迎え、本号は岸本会長の挨拶の他、先日開催された通常総会の報告、各委員会や研究会の年度計画等を中心に誌面構成を行い、新年度号として発行した。会長をはじめ協会理事の新体制が発足し、約1年が経過し2年目の年度を迎えた。会長、副会長並びに各委員長が中心となり、当協会の在り方等を見直し、協会運営における改革を進めてきた一年であったが、その成果を目に見える結果として顕わすことがこれからの課題であろう。

県協会の在り方についてもさる事ながら、中小企業診断士の存在意義についても一考の余地が多分にある。その存在意義は自らが見出すものではなく、経営支援を行うクライアント、所属する組織等、外部の関係者からの評価に裏付けされるものとする。そのため、会員各位においても、自らの研鑽を継続的に行う必要があるが、幸い、当協会では定期的な会員研修の開催に加え様々な研究会活動がなされており、スキルアップの機会の提供を行っている。こうした機会への積極的な参加により、会員および県協会全体のレベル向上が図られることが望まれる。

本誌が会員並びに関係機関の皆様に当協会の本年度の取り組みを知っていただく一助となれば幸いである。

発行にあたり、ご協力下さった皆様に心よりお礼申し上げます。

(広報委員長 小寺 崇之)

表紙の写真：広島ビッグアーチにて (撮影：小寺 崇之)

一般社団法人広島県中小企業診断協会会報 第73号

発行：平成27年7月10日

一般社団法人 広島県中小企業診断協会

〒730-0052

広島市中区千田町3丁目7番47号 広島県情報プラザ3階

TEL (082) 569-7338 FAX (082) 569-7336

E-mail: jsmecca34@sunny.ocn.ne.jp

発行人 会長 岸本 実

編集人 広報委員長 小寺 崇之